

土木学会活動記録の蓄積・保存の観点からみたホームページの役割について

（社）土木学会附属土木図書館 正会員 坂本 真至

1. はじめに

土木学会のこれまでの活動記録は、創立時から 80 年間の記録をまとめた大部の『土木学会の 80 年』を嚆矢とし、『25 周年略史』、『40 周年略史』、『50 周年略誌』、『60 周年略史』、『70 周年通史 - 1914 ~ 1984』、『90 周年略史』とほぼ 10 年ごとに、冊子体で出版されている。編集時に参照された活動記録の詳細は、総会資料や学会誌の会告などにまとめられている。また、発行された出版物の主要なものは土木図書館に収録されている。ただし詳細な議事録や委員会資料などは保存されていない。一方、土木学会ホームページ（以下 HP）は 1996（平成 8）年 8 月に国立情報学研究所（旧文部省学術情報センター）の WEB サーバに間借りして暫定開設してから今年で丸 10 年を迎えるが、この間に掲載された多種多様なコンテンツ（委員会議事録や資料を含む）については、統一的に蓄積・保存されていないのが現状である。以下に、学会 HP の変遷および問題点と課題を示す。

2. 土木学会 HP の変遷と特徴

土木学会 HP 開設からの 10 年は、レイアウト変更を契機に、1996 年から 2000 年までを第 1 期（「試行期」）、2000 年から 2002 年を第 2 期（成長期）、2003 年から 2005 年を第 3 期（内省期）と分けることができる。また最もコンテンツが集中する「委員会ページ」については、一貫して統一的な管理の外に置かれている。

第 1 期では、独自ドメインを持たず旧学術情報センターサーバに間借りし、最低必要項目を並べリンクを張っただけの状態、委員会ページも一部しか立ち上がっておらず、試行期として位置付けられよう。

第 2 期では、デザインや機能を多少意識し、ドメインも取得して、学会の顔としての体裁がようやく整ってきた。トップ項目は増えたが、何がどこにあるかはわかりづらいものとなっている。インターネットスキルがこの時期には広く普及したこともあり、委員会ページの数は爆発的に増大しつつあった。この時期は学会 HP の成長期と位置付けられよう。

第 3 期では、第 2 期のコンテンツ増大や IT スキルの向上を踏まえ、また時代の流行もあってか、フレームと画像を配置したデザイン重視のイメージ作りだが、トップの項目は学会関係者を前提とした配置で、ターゲットが見えず、またコンテンツも何がどこにあるのか依然としてわかりづらい設計となっている。2003 年 8 月には社会とのコミュニケーションをはかるツールとして情報交流サイト（jsce.jp）が新設されたが、総じて会員技術者の内向きの視点で構成されているように見える。内省期と位置付けられよう。

表 - 1 土木学会 HP の変遷と特徴

段階	情報(項目)・基本情報	トップレイアウト	コミュニケーション機能	委員会ページの管理・蓄積状況	コメント
第 1 期 1996~2000 「試行期」	必要項目を並べリンクを張っただけ	考慮外	考慮外	学会事務局管理外。少数の委員会が外部に作成、リンクも少数。	ドメインなし(NIIに間借り)。とりあえず作ったという印象
第 2 期 2000~2002 「成長期」	学会 hp の入口としての機能を多少意識	ブロックの組み立てによるカテゴリー分け	考慮外	事務局管理外。数は増大。基本 html は学会サーバに ftp 転送。多くは外部に作成。	ドメイン取得、トップの情報量きわめて少ない。何がどこにあるかわからない
第 3 期 2003~2005 「内省期」	必要な項目の枠組みをフレームで提示	フレーム化（四季の画像使用）	Jsce.jp による双方向性機能を付加	事務局管理外。殆どの委員会が作成。蓄積・保存のルールはない。委員会担当者のスキルに依存	必要な機能は揃ったがポリシー・統一方針やルール、管理主体が明確ではない

3. 委員会ページの蓄積・保存の必要性

上記の土木学会の変遷の中で示したように、委員会ページコンテンツが膨大なものになっているにも関わらず、統一的な管理・保存が一度もなされていないことは、以下の点で大きな問題である。

キーワード デジタルアーカイブ、土木学会情報資源、発信と保存

連絡先：〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 Tel03-3355-3442 Fax03-3355-6055 Email:sakamoto@jsce.or.jp

土木学会の活動全体の中に占める委員会活動の割合は最も大きい。これに比例して、ホームページにおいても、そのコンテンツが占める割合は、最も大きい。この部分の蓄積・保存がなされなければ、学会活動の重要な一部分が抜け落ちてしまうことになる。

委員会活動の記録自体がデジタルファイルのみで印刷されないケースも増えており、また印刷された場合でも正規の出版物以外は統一的に保存されていないのが現状で、デジタルファイルの蓄積・保存がなされないと、活動記録そのものが消滅してしまう可能性が出てきている。

明確な蓄積・保存のルールがなければ、掲載項目は各委員会の裁量に委ねられ、必要情報が網羅されずに欠落してしまう可能性がある。

委員会活動記録は土木学会の貴重な歴史資料であり、後世の研究者の研究対象ともなる。

今まで保存対象となっていなかった詳細な議事録や委員会資料もコンテンツとしてアップされており、これらの蓄積・保存は新たな学会の情報資源となり得る。例えば学会の賞選考プロセスの記録は、選考時の技術水準をコンパクトにまとめているものであり、貴重な資料と位置付けられる。

表層部分にある土木学会のメインページは、動的なページ（例えば情報交流サイトのような）を除いては、Internet Archive¹⁾などの世界的なウェブアーカイブのシステムの中で、ある程度は遡ることができる（上記の表 - 1 は、Internet Archive からアクセスしてダウンロードし、ある程度保存したファイルをもとに検討したものである）。しかし深層部分にある委員会ページについては収集ロボットの保存対象となっておらず、また、外部リンクなどで保存対象が消えているケースが多く、土木学会自らが何らかの蓄積・保存をルール化し着手する必要がある。

4．土木学会 HP における学会活動記録の蓄積・保存上の課題

学会 HP の役割は、一般市民への土木の理解のアピール、社会基盤整備に対する学会提言、大災害などへの調査団活動の提示や復興提言、土木教育用教材提供、市民向けの土木デジタルミュージアム、専門家向けの技術交流や資料の提供、会員に特化したサービスの提供などいくつかあげられる。当然それに相応しいコンテンツやデザインなどが必要となってくる（これについては、土木学会担当部署で別途検討中である）が、それと同様に、活動記録の蓄積・保存の観点からは、特に委員会ページにおいて以下の課題があげられる。

現状の委員会ページの調査

- ・ 共通項目の洗い出し（委員会活動記録の必要情報チェック/レイアウト、基本機能チェック）
- ・ 運営先の確認（JSCE サーバか大学等委員提供サーバかレンタルサーバか 統一する方向で検討）
- ・ 電子投稿システムの有無/文献検索システムの有無
- ・ 一般向けコンテンツの発掘・トップバナーへのリンク

管理ツールの検討

- ・ 更新ごとのページ蓄積機能/簡単に参照可能な機能/検索機能など
- ・ IT スキルがそれほど要求されずに更新や追加が可能、階層管理、権限付与が可能
- ・ WEB 標準（文書の構造化、アクセシビリティ、RSS など）に準拠

運営管理ルールの検討

- ・ 的確な活動記録保存が可能なルール作り
- ・ 統一的なルールによる委員会ページ全体の整合性、統一感を形成
- ・ 委員会担当者の負担が軽減されるような運用マニュアル作り

5．終わりに

土木学会 HP は多様な役割を有するが、学会活動の蓄積・保存についても重要な役割を担っている。この機能は土木学会活動そのもののデジタルアーカイブにほかならず、将来の土木図書館を土木の学術総合情報センターとして位置付ける上で欠かせないものである。

1) Web 情報のデジタル・アーカイブ：WARP を中心に、廣瀬信己、情報管理、47-11, Feb. 2005 成瀬によればホールドメインアプローチ（「世界全体の Web 空間を、広域かつ自動的にスキャンし（中略）収集作業の自動化」を行う手法）により 150TB 以上の規模を有するとある。但しこの手法は「低コストで大規模なアーカイブが構築可能である一方、著作権等の法的問題を内包するうえ、玉石混交のアーカイブとなってしまうという欠点がある」と指摘されている。国会図書館では WARP プロジェクトを立上げている。これは「表層 Web の情報資源を、著作権者との許諾契約に基き、選択的に収集、蓄積することを通じて、その情報が更新や削除などによってインターネット上から消滅した後においても、過去の情報へのアクセスを可能とするための実験プロジェクトである」と定義されている。